

令和6年（2024年）の弥陀ヶ原の火山活動

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

地獄谷周辺の地震は少ない状態で経過しました。

地獄谷では熱活動が活発な状態が継続しました。

○噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況、2024年の発表履歴

2024年中変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）
------------	----------------------------

○2024年の活動概況

・噴気・地熱等の状況（図1、図3-①、図4-1～3）

芦峠監視カメラ（弥陀ヶ原の西約18km）による観測では、地獄谷からの噴気の高さは200m以下で経過しました。

10月8日から11日にかけて現地調査を実施しました。地獄谷では2012年以降、噴気活動の活発化がみられる紺屋地獄や百姓地獄などで引き続き活発な噴気活動が継続していました。赤外熱映像装置による観測では、噴気地帯に対応する高温領域が引き続き確認され、2023年と比較してその分布に大きな変化はありませんでした。

・地震や微動の発生状況（図2、図3-②）

地獄谷周辺の地震活動は、低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図3-③～⑥、図5）

地殻変動観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。



図1 弥陀ヶ原 地獄谷からの噴気の状況（10月22日 芦峠監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧できます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、名古屋大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』『数値地図50mメッシュ（標高）』『数値地図25000（行政界・海岸線）』『数値地図25000（地図画像）』を使用しています。

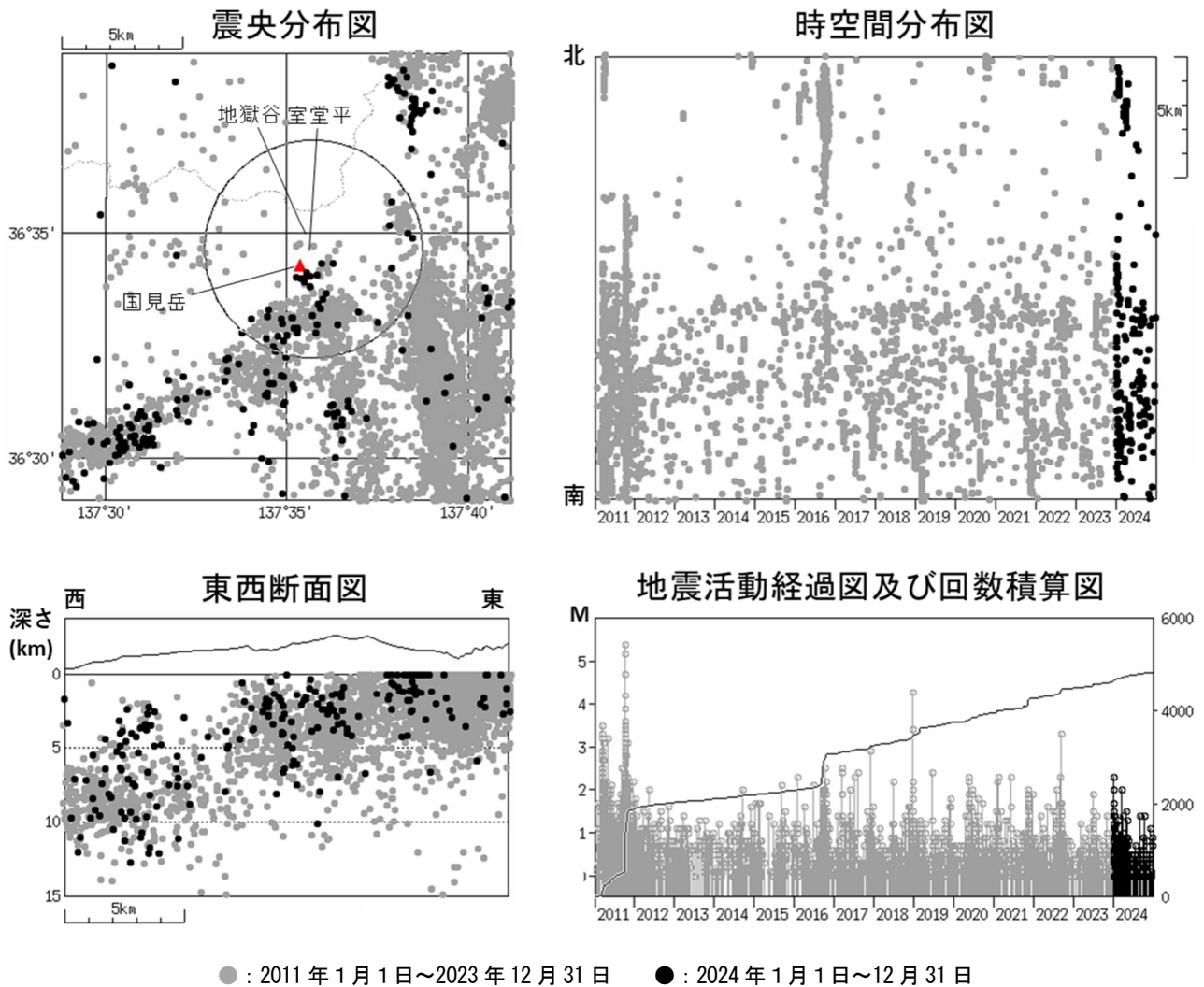


図2 弥陀ヶ原 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2011 年 1 月 1 日～2024 年 12 月 31 日）
 震央分布図中の円は弥陀ヶ原の計数対象地震（室堂平で S-P 時間 1 秒以内）のおよその範囲を示しています。
 広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。なお、2020 年 9 月以降については、地震観測点の標高を考慮する等、震源決定の手法を変更しております。
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。
 M（マグニチュード）は地震の規模を表します。

- ・地獄谷周辺の地震は少ない状態で経過しました。
- ・1 月 1 日から 4 日にかけて地獄谷の南 4 km 付近を震源とする地震が一時的に増加しました。また、1 月 8 日から 11 日にかけて地獄谷の南 1 km 付近を震源とする地震が一時的に増加しましたが、これらの地震活動の前後で、弥陀ヶ原の火山活動に特段の変化は認められませんでした。

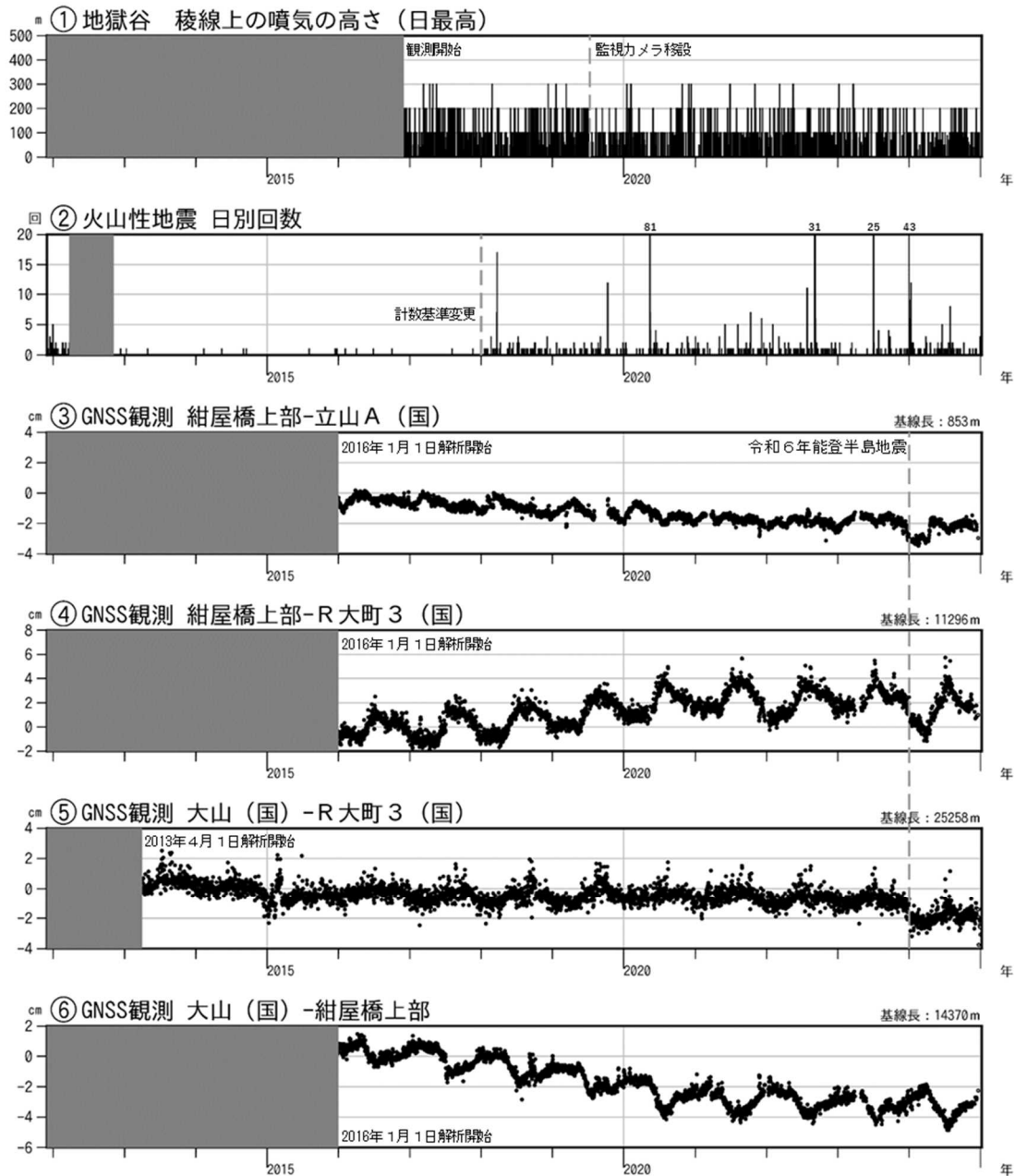


図3 弥陀ヶ原 火山活動経過図（2011 年 12 月 1 日～2024 年 12 月 31 日）

①噴気の高さの観測は2016 年 12 月 1 日開始

＊監視カメラの移設

2019 年 7 月 10 日まで：瀬戸蔵山西監視カメラによる

2019 年 7 月 11 日から：芦峯監視カメラによる

①、③～⑥灰色部分は観測・解析開始以前を示しています。

②灰色部分は機器障害による欠測を示しています。

＊火山性地震の計数基準

2017 年 12 月まで：立山室堂 2 の上下動成分で最大振幅 $40 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P 時間 1.0 秒以内

2018 年 1 月から：室堂平の上下動成分で最大振幅 $1 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P 時間 1.0 秒以内

③～⑥GNSS 連続観測による基線長変化、空白部分は欠測を示します。(国)：国土地理院

- ・噴気活動に変化はなく、熱活動は活発な状態が継続しました。
- ・今期間、地獄谷周辺の地震活動は、低調に経過しました。2018 年 1 月の計数基準変更以降、時々地震回数の急増が見られますが、いずれも地獄谷から離れた場所で発生した地震によるものです(②)。
- ・GNSS 観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。また、令和 6 年能登半島地震によると考えられる変動がみられます(③～⑤)。

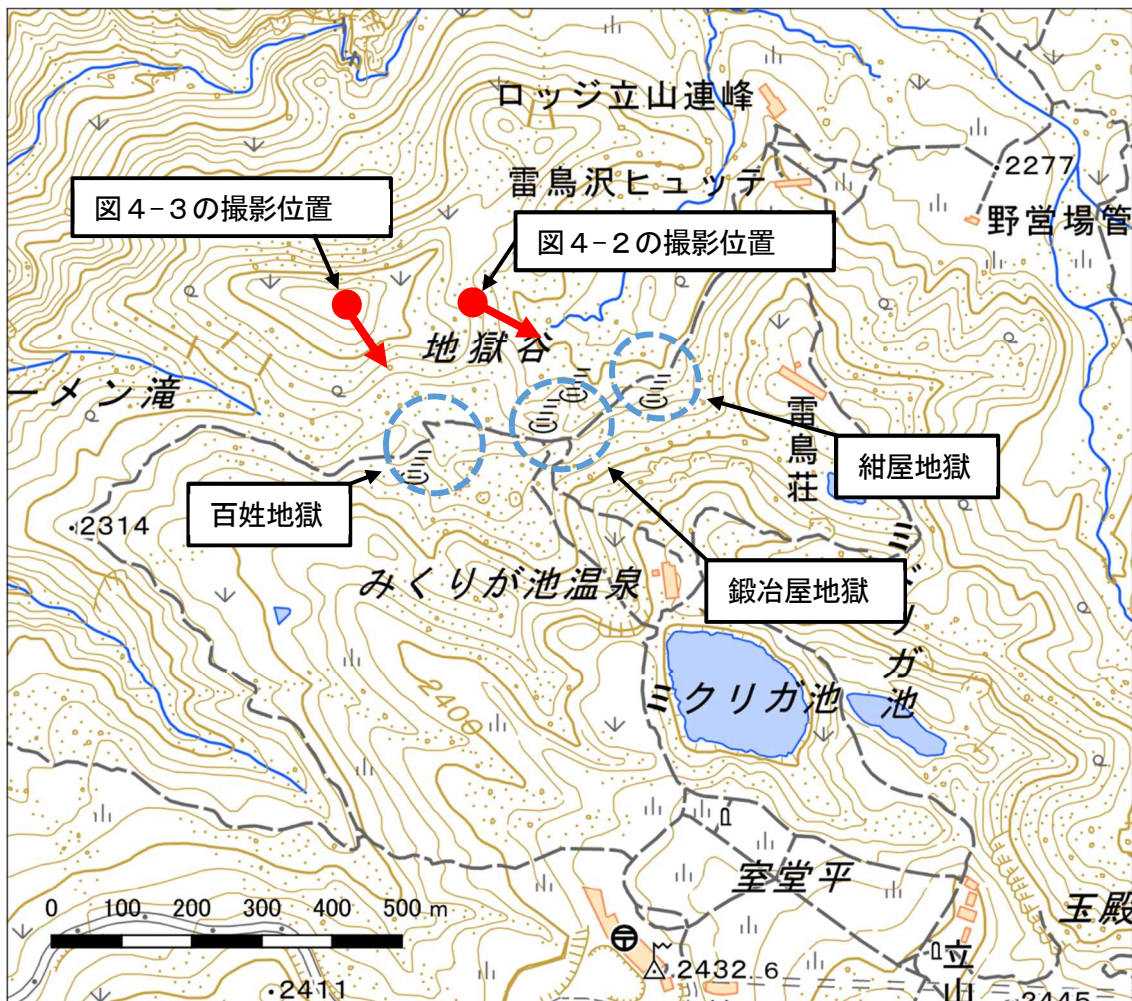
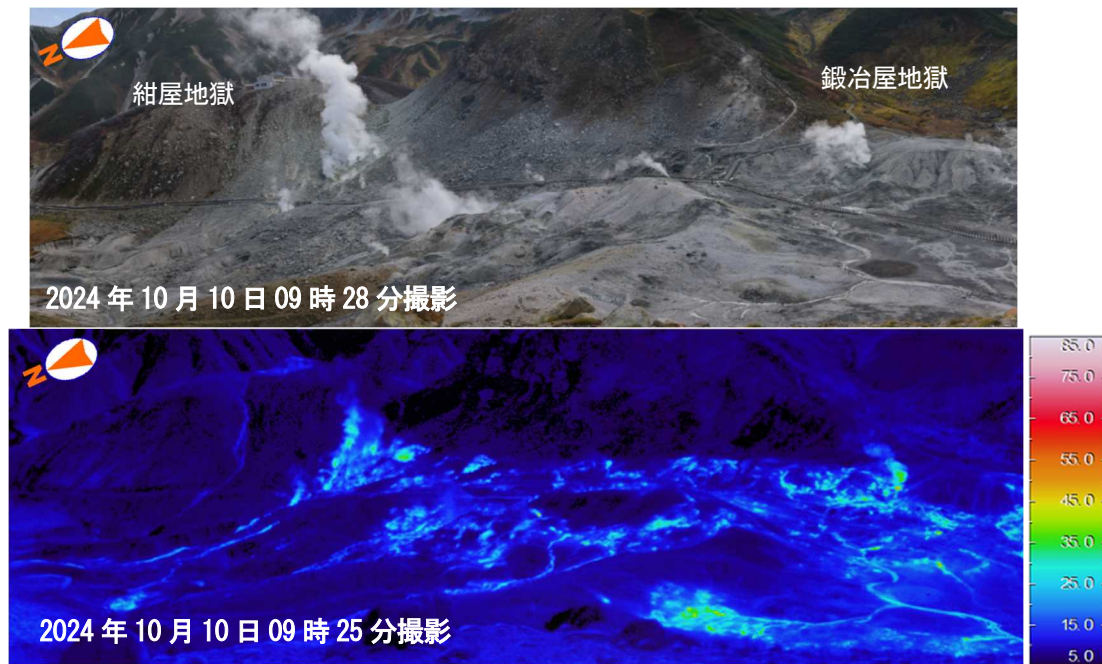
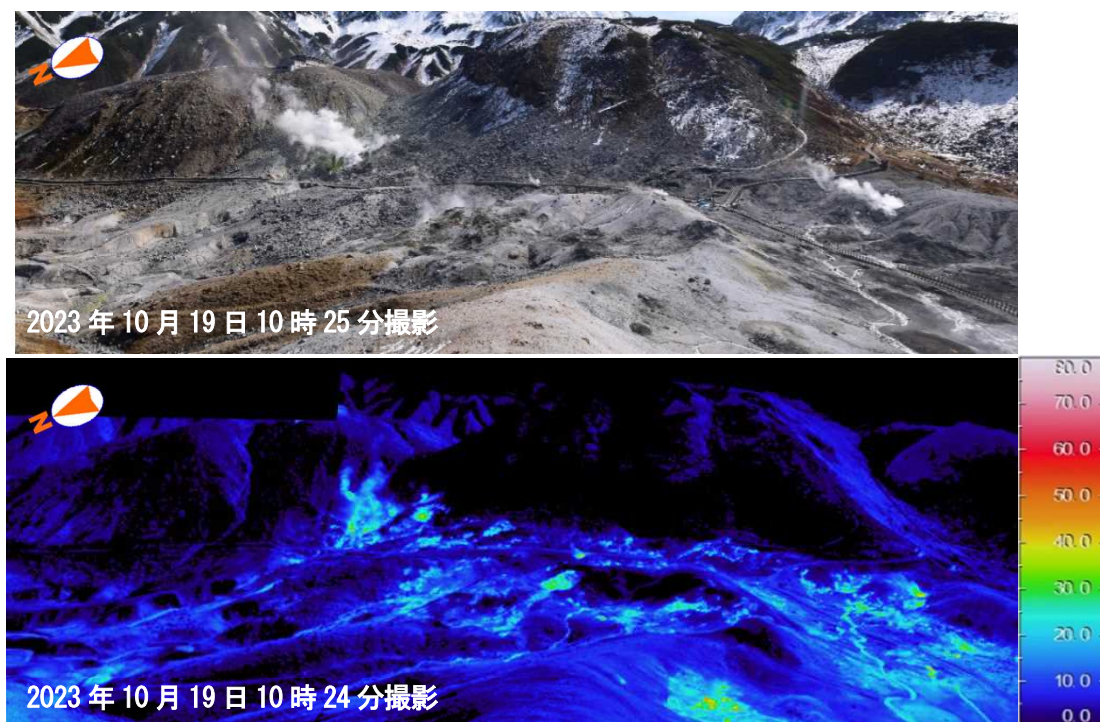


図4-1 弥陀ヶ原 目視・熱観測の撮影位置
撮影位置及び撮影方向を赤矢印で示しています。



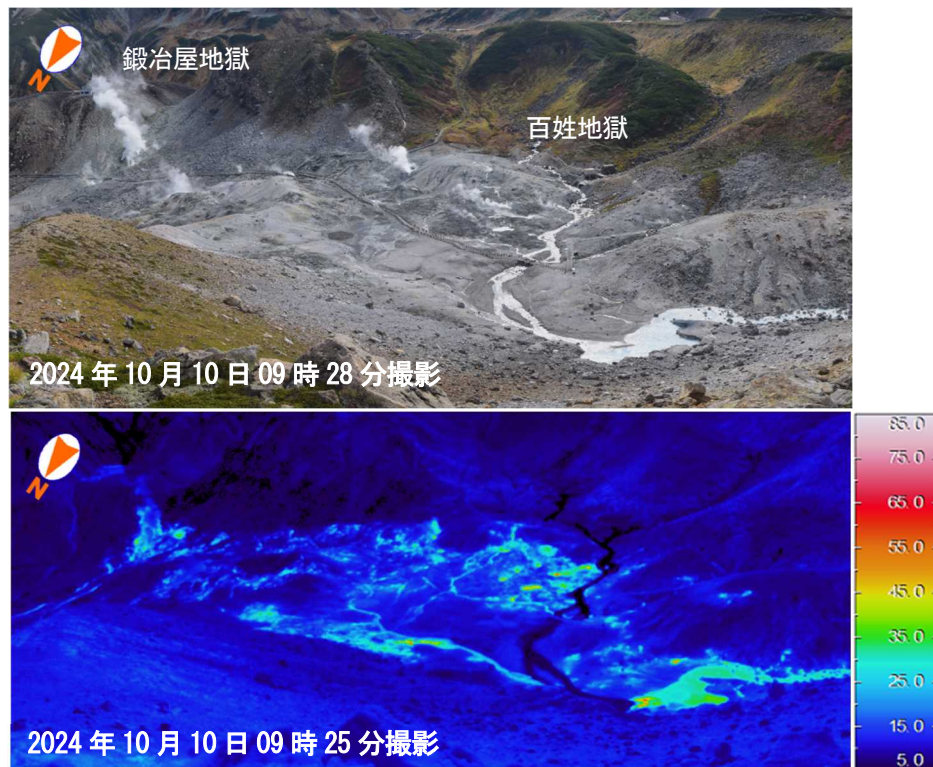
天気：晴れ、気温：8.9℃、湿度：61.9%（2024年10月10日）



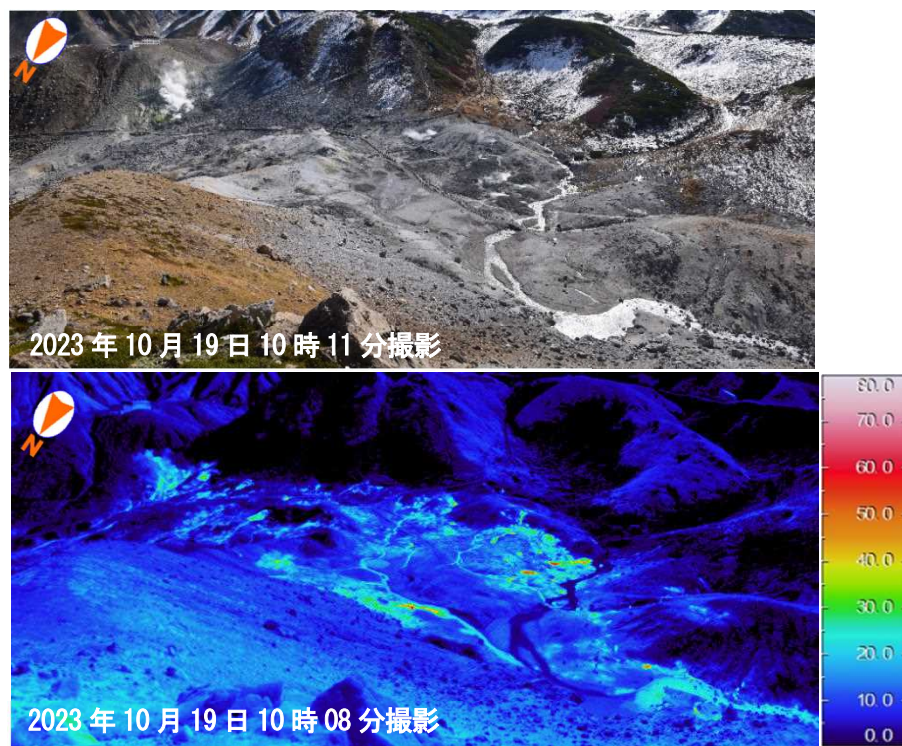
天気：薄曇り、気温：7.7℃、湿度：38.4%（2023年10月19日）

図4-2 弥陀ヶ原 地獄谷（紺屋地獄及び鍛冶屋地獄）の状況（撮影位置及び撮影方向は図4-1参照）

・前年同月（2023年10月）の観測結果と比較して、高温領域の分布に目立った変化は認められませんでした。



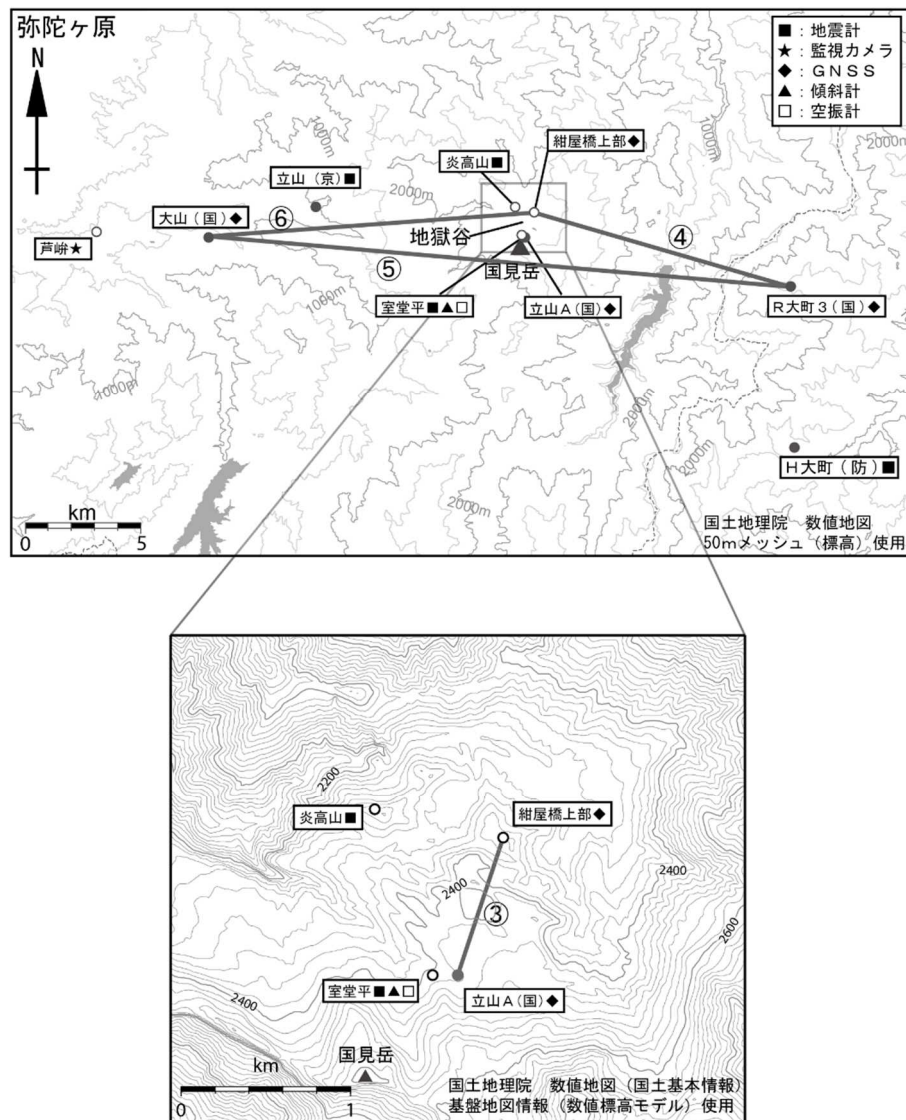
天気：晴れ、気温8.9℃、湿度61.9%（2024年10月10日）



天気：薄曇り、気温：10.3℃、湿度：22.4%（2023年10月19日）

図4-3 弥陀ヶ原 地獄谷（鍛冶屋地獄及び百姓地獄）の状況（撮影位置及び撮影方向は図4-1参照）

・前年同月（2023年10月）の観測結果と比較して、高温領域の分布に目立った変化は認められませんでした。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国): 国土地理院 (防): 防災科学技術研究所 (京): 京都大学

図5 弥陀ヶ原 観測点配置図

図中のGNSS基線③～⑥は図3の③～⑥にそれぞれ対応しています。

京都大学の立山観測点は、4月30日に観測を終了しました。

表1 弥陀ヶ原 気象庁の観測点一覧

測器種類	地点名	位置			設置高 (m)	観測開始日	備考
		緯度	経度	標高(m)			
地震計	室堂平	36°34.60′	137°35.75′	2419	-77	2016.12.1	
	炎高山	36°35.14′	137°35.43′	2375	-2	2016.12.1	広帯域地震計
空振計	室堂平	36°34.60′	137°35.75′	2419	7	2016.12.1	
傾斜計	室堂平	36°34.60′	137°35.75′	2419	-77	2016.12.1	
GNSS	紺屋橋上部	36°35.05′	137°35.94′	2382	4	2016.12.1	
監視カメラ	芦峠	36°34.70′	137°23.13′	382	9	2019.7.11	